

「家の中で傘を広げると不吉」だって？

6月の半ば。朝起きると珍しく雷鳴がとどろいていました。黒く曇った空からはポツリポツリと雨が降り始めています。すぐに止みそうな気配でしたが、念のために日本から持っていった黄色い折り畳み傘を持参しました。

電車で約30分離れたマラガも軽く雨が降っていました。駅から傘をさしながら徒歩10分で大学の校舎に到着。一番乗りで誰もいません。始業までまだ15分ほどあったので、私は自分の椅子の前に濡れた傘を広げておきました。

5分ほどして、幼稚園の先生をしているという小柄で可愛らしいスイス人のサラが教室に入ってきました。そして私の前に置かれた広がった傘を見るなり、彼女は挨拶もそこそこに叫び声を上げたのです。

「ケ マラ スエルテ！」(なんて運の悪くなることをするんでしょう!)

「エ! 何が?」

「あなた知らなかったの? 部屋の中に傘を広げておくことは、不幸をもたらす良くないことと知られているのよ」

「エエッ! それは知らなかったなあ。じゃあ、どこに広げたらいいんだい?」

「そりゃ、もちろん、家の外よ」

やりとりをしている間に、文法の担当教師ラウラが教室に入ってきました。文法もだけれど、スペイン文化、スペインの風習を知ることでも大事なことです。そこで、ほかのクラスメートも揃ってきたところで、改めてラウラに聞いてみました。

「そう、サラの言うとおりよ。タケシのやったことを見たら、大部分のスペイン人は驚き、一部の人は嫌がるワ。Superción(迷信)と言うんだけど、こういうの、ほかにもいくつもあるのよネ」

そう言いながら彼女はいくつかの例を挙げました。

・黒い猫が自分の前を通ると不吉なことが起こる

- ・はさみが広げられたまま置かれていること
- ・鏡を落として割ってしまうと7年間悪いことが起きる
- ・13日の金曜日には不吉なことが起こる
- ・はしごの下を歩くと不吉なことが起きる

日本にも、数え切れないほどの多くの迷信があります。例えば：

- ・夜に口笛を吹くと、蛇(または妖怪、お化け)が出る
- ・風邪は人にうつすと治る
- ・しゃっくりが100回出ると死ぬ
- ・靴下を履いて寝ると親の死に目に会えない
- ・馬鹿は死ななければ直らないが、アホは死んでも直らない(なんかワカンナイなあ、この迷信)

きっとメキシコにも多くの迷信がありますよね。科学的な根拠のまったくない知識を誤信すると、社会に無用な混乱や差別をもたらします。一方で、その非科学性、非合理性をすべて迷信だとしてあっさり片付けてしまえば、人間の精神の豊かさというものがなくなってしまうかもしれません。人々の心理には、世界に共通するものがあるようですね。



清水武 Takeshi Shimizu 旅行作家
世界文学紀行を定年後のライフワ
ークに作品の舞台を訪ねている。
東京都・昭島市在住
<http://homepage2.nifty.com/donky/>